



外国人市民と市民との相互交流を深めるため、豊橋市内で国際交流活動している団体をシリーズで紹介します。

ヒッポファミリークラブ

「ことばと人間」をテーマに、多言語の自然習得活動を行う「ヒッポファミリークラブ」。「ファミリー」と呼ばれる活動の場が全国各地に約700か所、この東三河にも5か所（豊橋3か所、豊川、田原）あり、赤ちゃんからシニアまで、様々な年代の会員がいます。オリジナルの多言語マテリアルCDを聞いて歌うように口に出したり、世界各国の歌にあわせて踊ったり、ゲームをしたり。大人も子どもも、家族で参加する人も一人で参加する人も、みんな一緒になって思いっきり楽しんでいます。

このように、いろいろなことばが聞こえてくる環境をつくる（＝多言語に浸る）ことで、様々な文化やことばに対する寛容性や公平性を養います。多様性に開かれた心を持つ人間を育てる、それがヒッポの目指していることです。

ヒッポでは、世界の人たちと出会う国際交流活動も盛んです。わが家にもオマーンという国から初老の男性がやってきたことがありました。肌の色も日本人とは違います。その違いをものともせず子どもたちは「絵本を読んで!」とひざに座ったり、まるでおじいさんがきてくれたように接していました。子どもたちから交流というこ

問合せ ☎0120-557-761（平日午前9時～午後5時半）
HP: <http://www.lexhippo.gr.jp/>

とを教わったような気がしました。

そのような一泊のホームステイ、青少年交流（小学5年より）、高等学校交換留学、家族交流、大人留学等いろいろなプログラムがあります。

わが家の主人はこの春、長年勤めた会社を定年退職しました。かねてからの夢として「留学をしてみたい」と言っていたので、現在同じヒッポ活動のあるアメリカとメキシコに5か月間出かけています。

アメリカでは80歳のおじいさんの所へホームステイをし、メキシコでは30歳の男性の所で暮らしながら、この活動を楽しんでいます。出会った人たちに赤ちゃんのようにかわいがってもらえているのかなと思いつつ土産話を楽しみにしています。

世界各国の青少年、大人が集まり交流した「多言語キャンプ・雪の学校」



ブラジル人らが茨城県被災地へ支援物資を送りました

9月10日の台風18号による豪雨で被災した茨城県常総市に支援物資を送ろうと、NPO法人ABT豊橋ブラジル協会（ABT）らの呼びかけに、予想を超える多くの善意が寄せられました。



支援物資を仕分けするボランティアの皆さん

同地域はブラジル人も多く住んでおり、ABT理事長が現地へ連絡を取ると、支援を必要としている人がいることが分かりました。ABTのWebラジオ「Radio Nikkey」の番組やFace bookで支援を募り、またブラジル人食材店「シ・ブラジル」が受付窓口となった所、豊橋市内だけでなく近隣の豊川、浜松、安城などからも物資が寄せられました。

運送用トラックは、「シ・ブラジル」と小牧市の運送会社が無償で手配。100名以上のボランティアが支援物資の仕分けやトラック詰め込み作業を行いました。

支援物資は9月19日と21日の2回に分けて被災地に送られ、現地のボランティアらが被災地を巡回し、ブラジル人だけでなく支援を必要としている多くの人に届けられました。

OFFICE GOODS DELIVERY

IKUMO

株式会社 イクモ

〒440-0056 愛知県豊橋市南旭町78番地
TEL.(0532) 56-0766(代) FAX.(0532) 56-0767
<http://www.ikumo-net.co.jp/>

文具通販最大手 ASKUL

新流通最多アイテム Smartoffice

学校、保育園市場No.1の新流通 スマートスクール

新流通三河No.1取扱高の

株式会社 豊橋タイプ

豊橋市松葉町2の5
TEL (0532) 53-5111(代)
FAX (0532) 53-6783
URL <http://www.t-type.co.jp>